

第4章 温室効果ガス排出量の推計

1 現状趨勢（BAU）シナリオにおける推計

（1）推計手法

現状趨勢（BAU）シナリオとは、今後追加的な省エネルギー対策や再生可能エネルギーの導入を行わないまま推移した場合を指します。

各部門のエネルギー消費量について、現在までの傾向が続くものと想定し、温室効果ガス排出量を推計します。

（2）推計結果

BAUシナリオにおける温室効果ガス排出量は、2030年度には374千t-CO₂となり、基準年度である2013年度の507千t-CO₂に対し、26.2%削減される推計となります。

なお、各部門別の推計については、次の表と図で示します。

表15 BAUシナリオにおける温室効果ガス排出量の推計

単位：千t-CO₂

	2013年度	2019年度	2030年度
産業部門	156	133	110
業務部門	94	63	58
家庭部門	89	77	67
運輸部門	157	140	128
廃棄物部門	11	13	11
合計	507	426	374

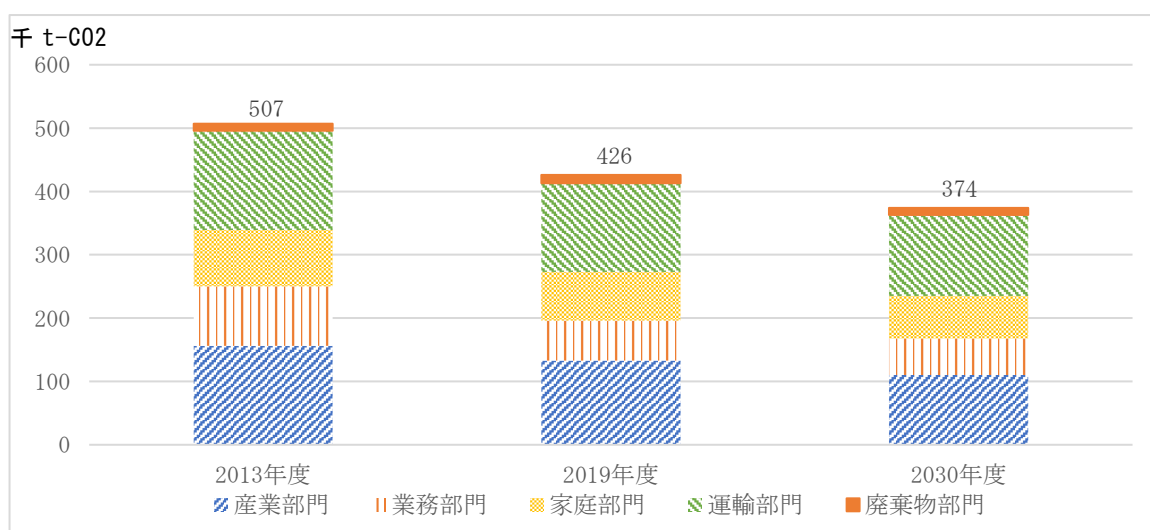


図10 BAUシナリオにおける温室効果ガス排出量の推移

2 低炭素シナリオにおける推計

(1) 推計手法

低炭素シナリオにおける温室効果ガス排出量とは、省エネルギー対策が本市に浸透した場合を想定したものを指します。

温室効果ガス排出量については、省エネルギー対策により削減される温室効果ガスの量を算定し、その値をBAUシナリオの推計値から差し引くことで推計します。

(2) 推計結果

低炭素シナリオにおける温室効果ガス排出量は、2030年度には328千t-CO₂となり、基準年度である2013年度の507千t-CO₂に対し、35.3%削減される推計となります。

なお、各部門別の推計については、次の表と図で示します。

表16 低炭素シナリオにおける部門別温室効果ガス排出量の推計

単位：千t-CO₂

	2013年度	2019年度	2030年度
産業部門	156	133	92
業務部門	94	63	54
家庭部門	89	77	61
運輸部門	157	140	109
廃棄物部門	11	13	11
合計	507	426	328

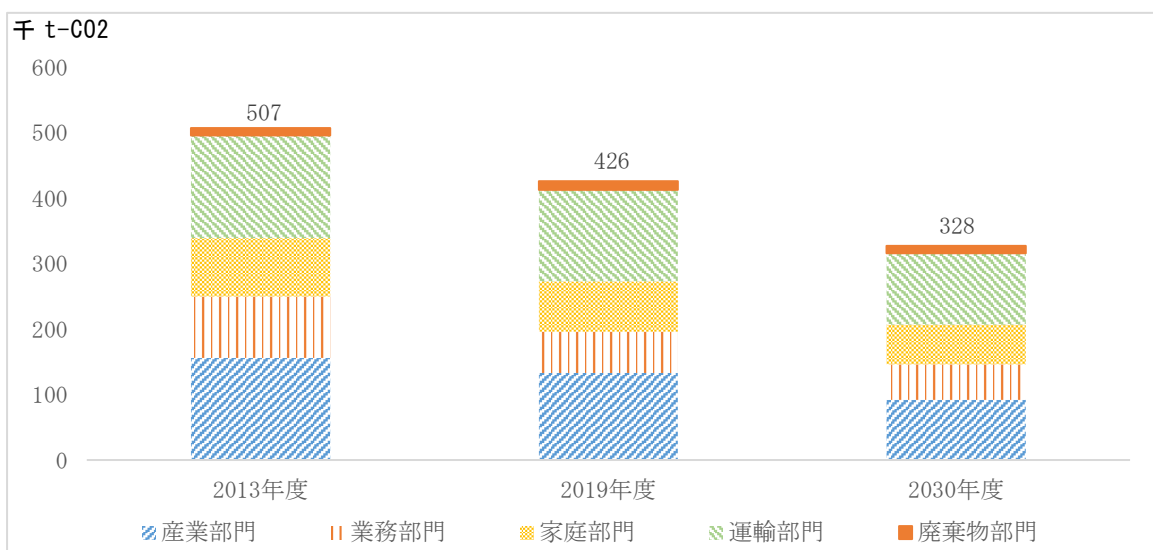


図11 低炭素シナリオにおける温室効果ガス排出量の推移

表17 国の省エネルギー施策の浸透により見込まれる温室効果ガス削減量

単位：千t-CO2

	省エネルギー対策	省エネルギー対策による温室効果ガス削減量
		2030年度
製造業	高効率空調の導入	0.73
	産業HP（加温・乾燥）の導入	0.17
	産業用照明の導入	4.30
	産業用モータ・インバータの導入	11.21
	科学の省エネルギープロセス技術の導入	0.86
	従来型省エネルギー技術	0.03
	熱エネルギー代替廃棄物利用技術	0.10
建設業・鉱業	ハイブリッド建機等の導入	0.12
農林水産業	施設園芸における省エネルギー設備の導入	0.67
業務部門	業務用給湯器の導入	0.29
	高効率照明の導入	3.36
	冷媒管理技術の導入	0.01
家庭部門	高効率給湯器の導入	1.00
	高効率照明の導入	4.29
運輸部門	次世代自動車の普及、燃費改善	18.36
合計（全体）		45.50